

スタッフから 《 観てみて 読んでみて～ 》

「こども六法」 (本) 山崎聡一郎 弘文堂
 人権やいじめ防止教育などで学校や家庭でおすすめの本書です。ある小学校教諭の実践のお話です。
 小学校の教室に、関心のある児童がいつでも手に取って読めるように展示してあります。また、日常生活の中で児童同士のトラブルや不適切な言動を指導する際には、関りがありそうなページと一緒に確認することもあります。言っではいけない事って知っていても、平気で「ウザイ、死ぬ、消えろ」などの言葉が飛び交う児童もいて…でも本当にいけないことなんだという正しい知識を知ることがすこしでもブレーキに繋がっていただければいいなと思います。〈中川〉

「さかなのこ」 (映画)
 ご存知さかなクンの自伝的図書の映画化。演じるのは女優の「のんさん」。
 映画の冒頭「男か女かなってどっちだっていい」と言い切るテロップが入るだけあって、演じるのんさんが、もうさかなクンにしか見えないところがすごいです！好きな事を純粋に続けて行く事の最強さというメッセージも心地よいし、周りの人の支えがあってこそ、さかなクンがさかなクンに成り得たという所も納得&素敵☆全体に漂う空気感、時の流れ方が、何かの映画に似てるなあと調べたら、「横道世之介」と同じ監督でした。見て良かったと思える作品です。〈めい〉

「うたがわ 詩歌川百景」 (漫画) 吉田秋生 小学館
 『イヴの眠り』で暴力は常に受けた側ではなく ふるう側の問題なのだ 『海街シリーズ』では「子供であることを奪われた子供ほど哀しいものはありません」と書いた吉田秋生。『詩歌百景』にも「子供は静かに溺れる」という名言がある。『海街』や『詩歌川』に登場する「子どもに寄り添い、子どもの傍に静かに佇むおとな」の姿が印象的。
 (マロン)

《CAP 東埼玉 2023 年度実績》

ワークショップ参加者 子ども958人・おとな358人
 (就学前幼児・小学生・中学生・その保護者・先生方など)

【編集後記】

今年も「10日間の瞑想」に行ってきました。戻ってきた下界(?)はとにかく情報過多で あっぴあっぴ。
 友人たちからは「で、悟った?」と聞かれます…
 「悟りとは 遠くにありて思ふのもの…」と 犀星の詩を口ずさむ、…あ、「悟り」じゃなく「ふるさと」でした (k)

東埼玉の日常 ⑮ by あまぐつ



ワークショップの日 シマシマ 服が かぶる



CAPについて もっと詳しく知りたい方は
 NPO 法人 CAPセンター・JAPAN
<http://www.cap-j.net/>
 CAP東埼玉について知りたい方は
<https://cap-higashisaitama.crayonsite.info/>
 ハ 今すぐクリック

CAP東埼玉では

多くの方にCAPを知っていただくために、CAPについての情報提供や、学校の授業・PTAの家庭教育学級・公民館などで、CAPワークショップを行っています。
 また、子どもの教育・環境などのさまざまな問題について語り合える仲間づくりをめざして活動しています。

大好き!

会報2024年5月発行

CAP (キャップ) 東埼玉

[認定 NPO 法人 CAP センター・JAPAN 登録団体]

代表 栗田みえ子
 事務局 T 090-6177-6858

<https://cap-higashisaitama.crayonsite.info/>

CAPとは Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の頭文字をとったもので
 子どもがさまざまな暴力から自分を守るための学習プログラムです

「らしさ」って?

『水を縫う』寺地はるな (集英社)

縫いものが好きな長男、「かわいい」が苦手な長女、「ほどよい」人生を歩んでほしいが為についつい口うるさくなってしまいう母等、章ごとに家族のそれぞれにフォーカスが当たっていく連作短編である。いずれの人物も世間が押し付けてくる「男らしさ」「女らしさ」「母親らしさ」等々に対して葛藤を抱えており、そこからどのように自由になっていくかが描かれていく。

私自身は、子どもの頃から自分の内なる感覚に従って生きていたため、だいたい「ちょっと変わった人」と思われがちである。しかし、本来は一人ひとり違った個性を持っているのだから、みんなが「ちょっと変わっている」のが「普通」なのではないかと常々思っている。

他人の生き方に文句をつけるのは主義ではないので、自分の感覚よりも世の中に蔓延している「らしさ」に従って生きたいと人がいても構わないと思う。それでも、固定観念に囚われて抑圧されていた自分に気づき、自分の感覚を信じて先に進もうとする登場人物たちにエールを送りたくなる。(師匠)

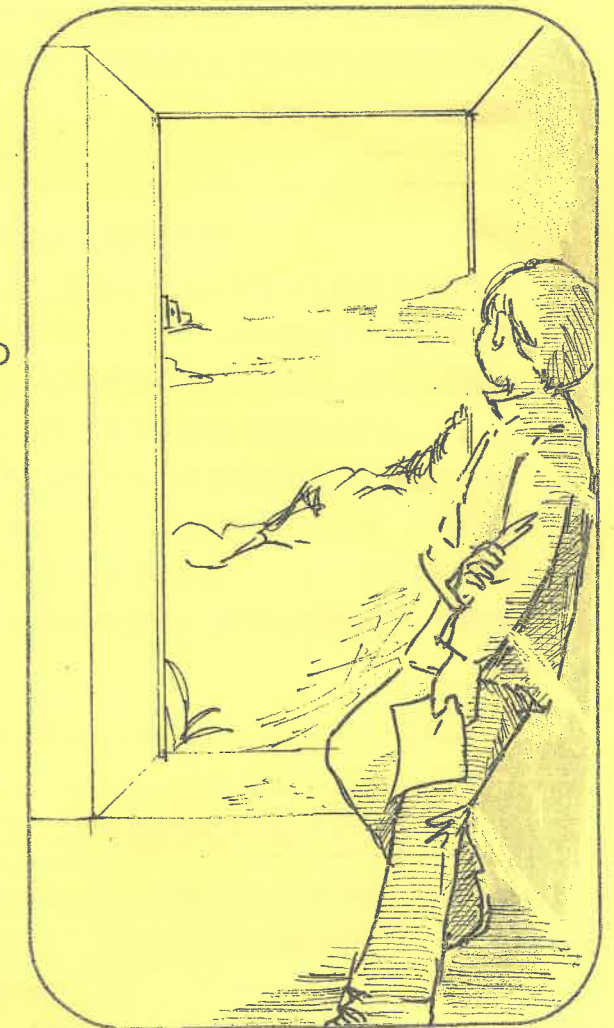
CAP 中学生暴力防止プログラムの中に「らしさ」を考える時間があります。
 男らしさとか女らしさではなく、自分らしく生きる、という内容なのですが、それは

「自分らしさ、私らしさって なに?」

と自問することにもなります。

自分について、立ち止まって見つめる・・・そんな時間があり、一緒に迷い考える仲間がいる・・・

それは大切な時間だと思うのです。(まろ)



♪ おとな ワークショップ



【おとなワークショップの内容】

おとな向けワークショップの所要時間は90～150分です。
「基本的な内容」のほか、
「基本の内容（ダイジェスト版）+ 希望のテーマ」構成もできます。

基本的な内容

CAP 概要・暴力について・子どもに「権利(基本的人権)」をどう伝えているのか・子どもワークショップの一部紹介（就学前・小学生など、年齢や発達に応じたプログラムを実演）・エンパワメント・暴力を受けた子どもの心理と対応(話の聴き方)・子どもを守るためにおとなが日常的にできること など。

しつけと体罰

体罰をした人がよく「しつけのつもりだった」と言うのを耳にします。
ではどこまでがしつけでどこからが体罰なのでしょう。いいえ、そもそも しつけと体罰は違うのです。
「中学生暴力防止プログラム」の『体罰について』の部分の内容をお伝えしながら、中学生の反応を紹介し、体罰の問題を考えていきます。

性暴力防止(自分の偏りを知ろう)

子どもを性暴力の被害者にも加害者にもしたくはありません。そのためには防止教育が必要です。
幼児や小学生に対する「CAP子どもプログラム」の性暴力防止部分の紹介と、子どもたちの反応や、おとなに知ってほしい知識をお伝えします。
また、性暴力を受けた子どもにどう対応したらよいか（言ってはいけないことなど）や 二次被害を与えないこと、また 私たちが「自分自身の《偏り》に気づく」という内容もあり、性についての自分の「思い込みと事実」など、性暴力防止について足元から考えていきます。



ワークショップのために こんな工夫してます！

前日編

子どもたちが目の前にいると思いながら台本を読む。(目の前にはサポテンだけ)

滑舌を良くするために 家の中で大きな声で歌を歌ったりして喉の筋肉を活性化します(笑)

とにかく睡眠！ あとは台本確認。余裕を持って進行できるよう準備する

枕元に台本を置いて睡眠学習です～

猫を相手に練習



内容 あれこれ

知的障がいのある子どもの感覚体験

知的障がいのある子どもたちはどのような感覚を持っているのでしょうか。実際に作業しながら疑似体験していきます。体験で得たことは 子どもへの適切な理解の足がかりになります。また、様々な子どもへの適切な対応にもつながります。CAPのSNP(スペシャルニーズプログラム)の一部紹介もあります。

小学校へあがる前に知っておきたい10のこと(保護者向け)

子どもの発達って？「イヤイヤ期」ってなに？ ランドセルって(中身が入ると)結構重い？
幼児期の子どもの発達や特性について学び、小学校へあがる前に「予防」の観点から、保護者が知っておきたいこととお話しします。子ども就学前プログラムも紹介。
子どもの環境を整えることや、「もしも」の時の対応を学びます！

子どもの話の聴き方(再現ドラマで考えてみよう)

「傾聴は話の聴き方の基本」ということはよく知られています。
自分の対応が本当に「傾聴」なのか不安に思うことはありませんか？
「よかれと思って」思い込みで話をきくと、むしろ子どもを傷つけてしまうかもしれません。
また、性暴力にあった子どもの話の「聞き方」は「傾聴」とは違います。
子どもの感情や行動のつながりも含めて、整理していきます。



*その他、いじめについて・虐待防止の基礎知識・中学生向け暴力防止プログラム紹介などがあります。

【ワークショップの感想】

- ・ 職場のチームづくりに非常に役に立った。知識を得るだけでなく、お互いの考えを知ることにつながった。(社会福祉関係者)
- ・ 単なる講座ではなく、ワークショップ形式だったので自分の感じ方を認識できたのが良かった。次回は別のテーマで受けてみたい。(小学校 教員)
- ・ え？ランドセルってそんなに重いんですか？ 子どもの目線だと おとなってこんなに巨大なんですか？ いちいち「目からウロコ」でした。お兄ちゃん(上の子)の時に知りたかった。(保育園 年長さんの保護者)
- ・ 生徒のことをいつも考えていたが、そもそも自分の「かたより」に気づいていなかった、ということに気づいた。生徒に対応する前に、自分を知ることがまずすべきだと確信した。(中学校 教員)

ワークショップのために こんな工夫してます！

当日編

夕方までのワークショップの時は注意力を保たせるため 甘いものを持っていきます！

気合い！

迷子癖があるので、時間に余裕を持って出かけます

子ども達のエネルギーについていけるように、明るい服を着てテンション上げて